

おだわら市民交流センターUMECO指摘事項に係る対応状況（令和6年度中間）

No	指摘年度	機能	指摘内容	予定している対応 予算措置など	実際に行った対応 今後の方針など	対応 年月
1	R5	拠点	UMECOアクティブサロン等について、さらに様々な分野の団体の参画を促進すべき。	定常的に開催している団体のほか、空きのある期間に展示の勧誘を行う。	年度当初に計画を策定し、展示時期が重なった団体には、時期の変更をお願いし調整した。 空き期間への展示勧誘については、定常的に展示を行っている団体以外に対して周知・勧誘を行っていく。	年間
2	R5	拠点	UMECO独自の企画（地域や事業者との連携など）やホワイエの有効活用をご検討すべき。	市民活動の発表の場と位置付けており、原則事業者は対象としていないが、学校等とは連携していく。	ホワイエを利用し、神奈川県立支援学校や、生活安全課等の啓発展示を行う。	年間
3	R5	拠点	登録団体減少や目標値未達等の課題があるため、団体向けにアンケートを行い、さらに利用しやすい場を目指すべき。 登録団体が抱える課題を把握、分析し、解決に資する講座等を実施すべき。 また、他主体の連携をコーディネートする必要性から、各主体のニーズを把握し、情報収集や関係づくりに努めるべき。	高齢化による後継者不足等を踏まえ、登録方法（更新を含め）の簡略化、若者の活動促進等を進める。 登録団体が抱える課題の把握については、ホームページ等を活用した情報収集、分析を行い、中間支援組織として、課題解決に向けた事業展開を目指す。 また、パートナーシップミーティング等を通じて多様な主体のニーズの把握と、各主体との連携に向けた支援策について引き続き模索していく。	若者向けの入門講座、シニア向けの交流会を開催した。 登録団体アンケートを紙媒体だけでなく、ホームページを活用し実施する。 他主体との連携については、パートナーシップミーティング等のイベントの実施を中心に考えている。講師を招へいする予算が不足している状況であるが、団体の知識を広げるための講座を開催する。	年間

4	R5	相談支援	団体からの専門的な相談が少ないことから、その原因分析を行うべき。	簡単な相談（ボランティア紹介、団体への加入等）については対応してきている。専門的な相談が少ないという課題については、要因の究明を進め、相談業務の体系強化方法について検討を行っていく。	スキルの高いスタッフを増やすことを目標に、専門家による外部教育を順次進めて行く。専門的な相談が少ないという課題については利用者の声を確認し解決方法を模索していく。	年間
5	R5	協働支援	企業とのネットワークについて、参加団体の偏りがあるため、幅広い分野の団体にメリットや協働事例の周知に努めるべき。	現時点ではパーマンス団体の発表の場と位置付けており、年度初めに参加希望を募り、重複しないに様になっている。	会場の問題（スペースや発表時間、音量の規制など）から制限がかかる団体があるが、引き続き広く参加を募っていく。	年間
6	R5	学習・体験	夏ボラ体験について従来の手法、ターゲットにとどまらないPRをすべき。	時代ごとのニーズが変化しており、今年度の状況（高校生の増加等）も踏まえ本年度後半より、次年度に向けて検討を行う。	WEB申し込みは好評であり、ソフト費用の課題はあるが。さらなる改修を検討していく。	年間
7	R5	交流・コーディネート	団体交流事業は、一過性にならないよう積極的なコーディネートや実施後フォローアップを行っていくべき。	登録団体のみ交流会とせず、多様な団体とのつながりを目的に、参加範囲を拡大し協働連携を促せる場とする。	パートナーシップミーティングを活用し、多様な団体とのつながりと協働促進を進めていく。	年間
8	R5	情報の集約・発信	市民が必要とする情報を適切に提供できる周知方法の検討（研究）に努めるべき。 また、ホームページについて、スマートフォン対応や一般市民へのUMECOのPRを含め、利用者目線での改善を検討すべき。	今年度「UMECO だより」の記事を見直し、より団体の情報を増やした。	ホームページの改修を現在検討中である。（スマホ利用者への対応も含め）情報の周知に不足があり、その要因を検証し改善する（特にチラシ関係）	年間

9	R5	相談支援	補助金交付団体への取材記事を広報するなどして、補助制度のPRを強化すべき。	補助金に関する講座の開催や市民活動・協働応援制度補助金のみならず他の補助金の紹介を引き続き行う。	視察報告のホームページへの掲載等を検討する。	年間
10	R5	学習・体験	男女共同参画分野で、行政や団体との連携を進め、課題発掘、情報発信に取り組むべき。	現在も人権・男女共同参画課とは年2回の共同展示等つながりを大切にしているが、今後もより良いつながりを大切に進めていく。	共同の展示のみならず、情報発信のため独自の事業を展開する。	年間
11	R5	交流・コーディネート	国際交流分野の他主体との連携強化、交流の場の提供など一歩踏み込んだ支援を行うべき。	外国籍の方々文化に触れながら交流する場や、文化政策課との協働でフェスのようなものを開催する。	外国籍の方のニーズをとらえ相談交流の場のようなものを展開する。	年間
12	R5	拠点	市民活動に対する市民の関心を高めためのアンケート項目の精査や回収率向上を図り、その結果を有効に活用すべき。 UMECO事業の振り返りについてもアンケート結果が重要となるため、それぞれの開催目的に即した項目を設定し、回収率を高める工夫をすべき。	アンケートは必須とすることは難しく、お願いというかたちとなるため、事業によってはなかなか回収率向上が図れないが、アンケート用紙を手渡しその場で記入いただく等の対応を取る。	年度末に各事業の評価を実施する。 アンケート通じ、主催者、参加者のニーズや評価をまとめ、次年度以降に反映させる。 課題となっているアンケートの収集方法について、回収率向上のための手法を模索していく。	年間
13	R5	拠点	事業実施前のニーズ調査を徹底するほか、他地域の先進事例収集等に努めるべき。	他市の各センターからの情報をもとに、スタッフを派遣する。	収集した情報を参考に、次年度以降の事業で可能であれば展開する。	2025年度
14	R5	拠点	各事業の目的に応じた成果の検証ができるよう、振り返りを徹底すべき。	事業結果報告を作成し、年度末に総括を行う。	アンケート結果等も参考に年度末に各事業の評価を実施し、翌年度の事業に反映させる。	年間

15	R5	協働支援	団体のエンパワーメントのため、それぞれの課題感を丁寧に掘り起こし、必要な支援につなげていくべき。	団体向けアンケートを実施、課題把握に努める。	アンケートを実施する。	2025年度
16	R5	協働支援	地域や企業のニーズ把握し、専門的な見地からの助言や多様な主体間の協働を促進すべき。	パートナーシップミーティング等により多様な主体のとの協働・連携を模索する。	小田原地区のみならず、近隣の地域を巻き込んだパートナーシップミーティング in 県西を開催する。	年間
17	R5	学習・体験	若者へのアプローチも重要であるが、団体内で中核を担っている中高年への働きかけをより強める事業を展開すべき。	若者だけではなく、当然中高年層の取り込みも重要と認識している。そのための入門講座等を開催する。	前半で、若者向けの入門講座、シニア向けの交流会を開催した。 今後も両年代層へ働きかける事業を立案・開催していく	年間